

わが国出生コホート連携の現在と今後の展望～連携によって救われる方々のために～

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会事務局 公開日: 2019-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 栗山, 進一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003597

シンポジウム 1 「コホート連携」

わが国出生コホート連携の現在と今後の展望 ～連携によって救われる方々のために～

栗山 進一

東北大学

三世代コホート調査、北海道スタディ、千葉こども調査による連携、成育母子コホート、浜松コホート、BOSHI 研究による連携を進め、国内出生コホート連携基盤を構築し、統合メタ解析、及び個別参加者データ (Individual Participant Data : IPD) メタ解析 (IPD メタ解析) の検討を行っている。上記は日本医療研究開発機構「成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY」の支援を受け、2019 年度より開始された。

国内出生ゲノムコホート連携基盤の構築・維持・更新については、各コホートにおけるプロフィールおよび既収集情報・試料に関する情報を収集する。その上で、各コホートのプロフィールおよび既収集情報・試料に関する情報を登録・管理・閲覧可能な Web ページ (例. Birthcohorts.net) の作成にあたる。

将来の統合メタ解析を見据えた解析方法の検討を開始し、曝露・アウトカムの定義、妊娠高血圧症候群 (Hypertensive Disorders of Pregnancy : HDP) /低出生体重 (Low Birth Weight : LBW) それぞれのリスク因子および予後の解析手法について議論する。また、メタ解析に関して課題を明確化する。

IPD メタ解析に関しては、海外の出生コホート連携における IPD メタ解析の実例 (EAGLE Consortium 等) における実態と課題に関する情報を収集する。さらに国内の循環器コホート連携における IPD メタ解析の実例 (EPOC-JAPAN、JALS) における実態と課題に関する情報を収集する。

本取り組みによってコホート間連携を進め、バーチャルコホートの形成によって効率化と相乗効果取得を追究し、多くの方々の救いとなることを目指している。